

64



第九特別根拠地隊

昭和十九年七月二十日

第九特別根拠地隊戰鬥詳報第十八號

自昭和十九年七月十七日
至昭和十九年七月十八日 對塔戰鬥

第九特別根拠地隊



0240

一 形勢
二 計畵
三 經過
四 成果
五 戎が兵力、現状
六 功績
七 所見

目次



(目次終)

0241

第九特別根據地隊戰鬪詳報第

號

自昭和十九年七月十七日
至昭和十九年七月十八日 作戰

一、形勢

(イ) 敵軍、狀況

省 略

(ロ) 我軍、狀況

當方面特ニ、サバン近海ニ於テハ對潛兵力微弱ニシテ敵潛水艦ヲ灣口ニ
聽知セル場合ト雖モ僅ニ魚雷艇三隻及陸軍機等ヲ以テ之ヲ制圧スルニ止
マリ徹底的、攻撃撃滅ヲ期シ得ガル狀況ニアリタリ。

二、計畫

當隊兵力以外、對潛兵力左ノ如シ

陸軍飛行第六十二戰隊 重爆 三機

第四號敷設艇

三、經過

65



1948
ASW

(4) 第十五特根機密第一六一七五番電及同一六一五番電ニ依ル友軍潜水艦

ヲ雷撃セル敵潜ハ當方面ニ行動スルモノト判断シアリシ處十六日ニ三四。ヨリ

ヨリ「サバン」ノ近巨高ニ敵潜ヲ測定スト、通報アリ、嚴ニ警戒中、處十七日

一五五「サバン」衛所ニテ一番聴音機、三一。度ニ敵潜ラシキ音源アリ零度

方向ニ進ト、報告ヲ得直ニ陸軍飛行第六二隊ニ對潜掃蕩ヲタメ即時

出動方要求スルト、共ニ魚雷艇ニ隻及當時陸軍船團護衛任務ヲタメ

在泊中、第四號敷設艇ニ對シ即時出動ヲ命ス。

一四七灣口上空哨戒中、陸軍重爆ハ「サバン」信號所、三三五度五。米ニ浮

油發見六番通爆ヲ二個投彈セルモ効果不明ナリ、(投彈位置三二度及二九五度正

高四六五。米)

當時「サバン」信號所、三。五度九。米附近ヲ掃蕩中、四號敷設艇ハ爆彈

投下向首急行中、「サバン」信號所、三三三度四二。米ニ探知並ニ敵潜望鏡

發見一五二六爆雷投射十二個ヲナス、敵潜ハ油ヲ莫クト曳キツ、逃避一六三

| | | | | | | | |
|-------|---------|----|---------|---|------------------------------------|----|---|
| 發元 | 十六日一五〇三 | 受日 | 十六日一九三〇 | 令 | 機務第一六一五。ニ番電 | 種別 | 無 |
| 15abg | 上野 | 上野 | 上野 | 達 | 十六日一三三。機一。六ニ敵潜水艦、雷撃手「五」ヲ受ケタルモ被害ナシ。 | 報 | 銀 |
| | 上野 | | | 告 | 位置ハ七度ニ命、E九六度四。分 | 等 | |

(四) 令達報告

濃厚油浮遊臭(ガビ)信號所、二九五度四。米ニ再度敵潜水艦ヲ探知第二回攻撃ヲナス。投射爆雷六個、攻撃後約四分ニシテ攻撃臭ニ重油泡湧出又響ヲ得一六三。第三回攻撃ヲナス爆雷投射四個、爾後反響音ナク攻撃臭附近、油帯ハ長サ三。米中一。米ニ擴大セリ。爾後薄暮時ヨリ、真雷艇ニ隻ヲシテ四號敷設艇ニ協力セシメ、敵潜水艦ヲ逃避ヲ防止シ終夜掃蕩ヲ續行翌十八日一。再度油源ヲ調査セシムルニ濃厚ナル油湧出中ニシテ油帯ハ更ニ擴大幅五。米長五理ニ達シ居レリ。敵潜水艦ヲ沈確實ト認メ掃蕩ヲ中止セリ。

0244

67

| | | | | | | | |
|-----------------|---|-------------------------|---------------------|----------------------------------|---------------------|-------------------------------------|------------|
| 四敷設艇 一三四。 | 一三五。 gabg | 一三五 P | 一三五 P | 一三五 P | 一三五 | 一三五 イ 折 | 一三五 十七日 |
| P | マリ 着信船所 着信船所 | 陸軍 四敷設艇 | 四敷設艇 | 陸軍 六二戦隊 | | P | |
| 四敷設艇敵潜水艦攻撃、夕暮出港 | 機密第一七二五番電 對敵潜水艦 一三五。サバニ湾口ニ敵潜水艦五隻ヲ察知目下陸軍、四敷設艇、自 雷艇二隻大發ヲ以テ制圧中。 | 一砲、三三三度七〇〇。米附近ニ敵潜水艦五隻アリ | 四敷設艇八隻ニ出港敵潜水艦ヲ制圧スベシ | 一砲台、三三〇度巨砲七〇〇。附近ニ敵潜水艦五隻アリ掃蕩制圧サレ度 | 三三五度巨砲不明零度方向ニ進ム 惑度一 | 一番聴音機、三三〇度巨砲不明敵潜水艦ヲシキ音源ヲ察知ス 一一五。 | |
| 信号 | 無線 | 電号 | 信号 | | | | |

11
22
33
44

0246

68

| | | | | | | |
|--|-----------------|------------------|-----------------|----------------|-----------------|--------------|
| 一五三 所 △ | 一六二五 砲台 △ | 一八〇八 四敷設 △ | 一九五 四敷設 △ | 二〇五 砲台 △ | 二二五 魚雷艇 △ | 十八日。七四。 △ |
| 一二番機共音源ナシ 二九四度 巨島四。四敷設爆雷攻撃、六 二九四度 五五。四敷設爆雷攻撃、四 (一六三五) 二九四度 六。位置ニ四敷設浮標ヲ入ル (一六四) | | | | | | |
| 飛行機爆毒地奥北方ニ於テ探知、二回ニ亘リ攻撃ヲナス、引續キ一六 二二面ニ捕捉、第三回攻撃附近廣範圍ニ亘リ油浮流シアリ 我爆雷残約ニ個 信令第ニ五號 魚雷艇ニ隻協力セシム | | | | | | |
| 司令官一砲台ニ於テ指揮ヲ執ル | | | | | | |
| 魚雷艇八明朝迄敷設艇ニ協力掃蕩ヲ續行セヨ 天明後油位置ヲ確メラセ度 敵情ヲ得ザレバ油源調査ニ後攻投セヨ (一九四五) | | | | | | |
| 信 | 信 | 電 | 電 | 電 | 信 | 信 |

1925 11 21 04

0190

0248

19 7 24
ASW

十八日一〇〇〇
口敵艦長

尸

只今効果検討中

「ガベ」信是所ノ三三度四二〇ニ探知被ニ爆撃鏡 発見一五ニ五爆
雷攻撃（十三個）敵潜水艇ハ油ヲ臭ク引キツツ 逃走（二六二）
濃厚ナル油浮流臭（ガベ）信是所ニ九五度四〇〇ニ再ニ第二回
攻撃ヲナス（六個）内一個ニ分後ニシテ 爆撃ス攻撃後約四分ニシテ攻
撃臭重油泡出反響音ヲ得第三回攻撃ヲナス（四個）
爾後反響音消エ（水深六〇米以上）攻撃臭附近湖太浮流
中中一〇〇米長三〇〇米ニ及ブ今朝一〇〇米第二回第三回攻撃臭赤
色数條極大テ 廣シ範圍ニ亘ル薄油アリ効果確實ト認ム
カナリ潮フルモ今尚油泡湧出（位置ガベ信是所ノ三〇七度四〇〇米）
攻撃臭附近中五〇米長廿五理ニ達ス、水深六〇米以上ナルヲ参照
撃沈確實ト認め掃蕩ヲ止ム

四 成果

左記ヲ綜合シ敵潜一隻ヲ確實ニ撃沈セルモノト認ム

(1) 第二回攻撃時重油泡湧出反響音ヲ得引續キ第三回攻撃時ニ於テハ
重油泡ノミニシテ反響音ナカリシコト（附近水深六〇米以上ナリ）

信 信 信

0249



功績

(一) 海軍少尉奥田實、指揮スル第九特別根據地隊衛所隊（聴音手海軍一守兵曹五内川久藏）ハ最初ニ敵艦聴知直ニ報告スルト共ニ爾後陸軍重爆及四敷設ヲ適切ニ敵艦在海面ニ誘導セリ。

五、兵力ノ現状
異状ナシ

- (四) 十七日一六二一第二回攻撃時、油帯ハ巾一。米長サ三。米ニ及ビタルコト（四敷設及陸上砲台確認）
- (五) 十八日一。第二回、第三回攻撃時附近ニハ尚重油湧出中ニシテ、油帯巾五。米長サ五。三。ニ至ルモ油湧出中ニシテ、油帯廣範圍ニ拡がり居ルコト（四敷設確認陸軍重爆ハ油帯ニ確認シアリ）
- (六) 八月六日第四回攻撃時、艦ヤパン入港時、全地ノ中ニ木炭ノ油ヲ認ム

19. 2. 21 日
21 日

1978
14
ASW

✓ 陸軍大尉伊藤忠吾、指揮スル第三航空隊飛行第六中隊隊員第二中隊、
重爆一機(陸軍中尉貴志良一指揮)ハ敵潜水艦ヲ発見目撃シ、
投下シ回敷設ヲシテ敵潜水艦ヲ発見。探知セシムル直接ノ端緒ヲ開ケリ。
✓ 艦長海軍大尉飯塚均、指揮スル第四航空隊ハ敵潜水艦ヲ発見敵
ヲ探知シ適切ナル攻撃ニ依リ之ヲ撃沈セリ。
之ヲ見

(4) 計五機ニ墜、適否

適切ト認め、特ニ今回、如ク奮勇ナル兵力ヲ以テ克ク敵潜水艦ヲ撃
沈シ、戦果ヲ得タル陸海空三位一体的協力ノ賜ト認め。

終

70

自七月十七日
至七月十八日
對潛掃蕩魚雷艇燃料消費調査表

| 燃料種類 | 戰闘中消費額 | | 残額 | 記事 |
|--------------------|--------|-------|-------|----|
| | 重油 | 潤滑油 | | |
| | 二八〇。五 | 一七九。五 | 八二〇。五 | |
| | | | 八七五 | |
| 備考 本消費量ハ魚雷艇ニ隻分ヲ示ス。 | | | | |

19
725
31
24 0
24 ✓

0252

71

710

七月十七日對潛掃蕩要圖 (縮尺 $\frac{1}{30000}$)

